

# なんば駅周辺における空間再編推進事業 整備プラン 概要版

大阪市計画調整局・建設局

## 1 なんば駅周辺の現況と動向 【これまでの経過など】

- ・大阪の南の玄関口の重点エリアとして、世界の都市間競争に打ち勝つため、都市魅力の向上や活性化を推進する必要がある
- ・多くの来街者が行き来する駅前広場の課題を改善するため、地元発意で空間再編の検討を開始し、地元・経済界・行政で検討
- ・まちづくり協議会の設立、官民の空間再編基本計画の策定を経て、2018[H30]年度から大阪市も予算化し事業を推進

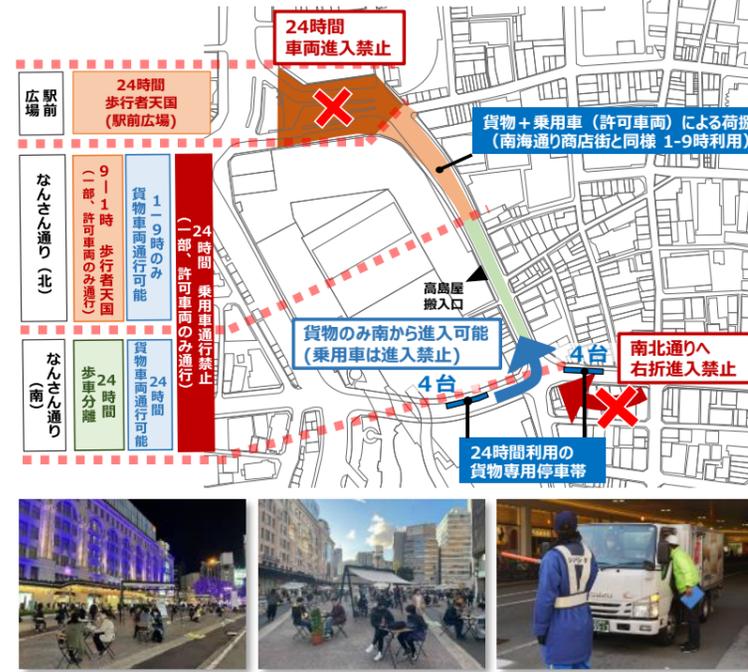
- ①なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会（2011[H23]～）  
（地元町会・商店街・企業）
- ②なんば駅前広場空間利用検討会（2015[H27]～）  
（地元・大阪商工会議所・行政）  
2016[H28]年度 なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画 策定
- ③なんば駅周辺道路空間再編社会実験（2016[H28].11/11～13）  
（なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会・大阪商工会議所・府市 実行委員会）



### ④社会実験（2021[R3].11/23～12/2）

- （道路空間再編：大阪市、利活用：なんば広場マネジメント法人設立準備委員会）
- ・交通荷捌きの運用や安全性、歩行者空間の利活用を検証する社会実験を実施。タクシー・バス等の交通機能の再配置とともに、交通規制・荷捌きルールを変更し運用

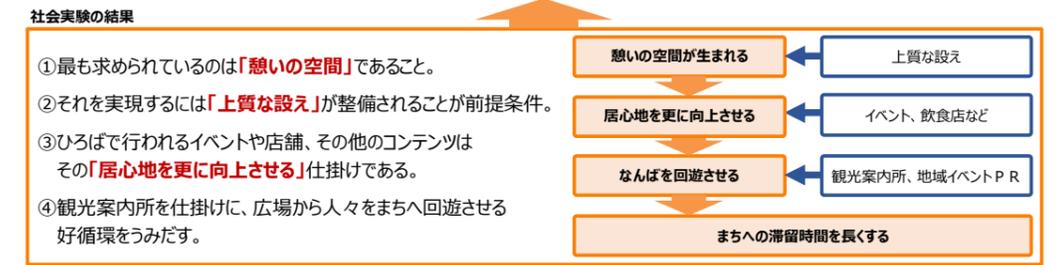
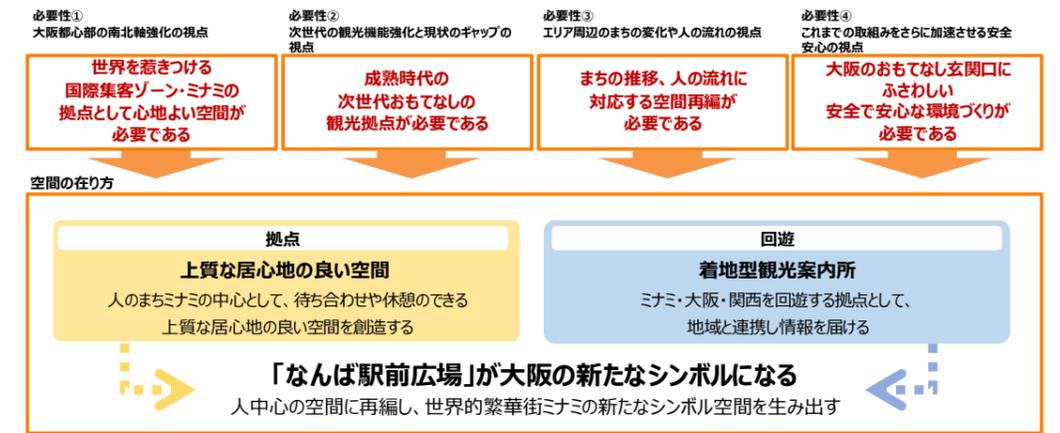
#### 【社会実験時の交通規制・荷捌きのルール】



## 2 「なんば駅周辺道路空間の再編に関する基本計画」におけるコンセプト（めざすべき方向性）

### (1)新たなシンボル空間の創出 (2)世界をひきつける観光拠点づくり

- ・なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、世界をひきつける観光拠点として上質で居心地の良い空間を創出
- ・ポストコロナの取組みとして、2025年大阪・関西万博に向けて整備を推進



（2017[H29.3]策定 なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画より）

## 3 基本方針

### (1)道路空間再編の方針

- ① 利用実態に合わせて、空間を再配分
- ② 歩行者空間の拡充による安全性の確保
- ③ 駅前広場を中心とした回遊ネットワークの形成 広場内に適切に休憩等の滞留施設を備え、より安全・安心で快適なネットワークの形成により回遊圏域を拡げ、エリア全体の活性化に寄与

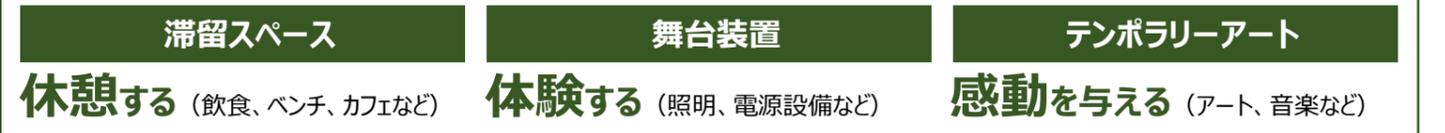
### (2)シンボル空間創出の方針

- ① 多様な活動の舞台となる空間の創出
- ② 日常・非日常の風景の実現
- ③ 夜間景観の形成

誰もがクリエイティブになれる場所、訪れた人がワクワクする場所



▲なんさん通りの様子



まちの歴史やにぎわい、大阪の都市格を感じる 心地よい空間づくり



※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

## 4 整備計画

### (1) 全体計画

#### ①：交通機能の再配置と滞留空間の創出

- ・駅前広場付近は歩行者が滞留可能な空間
- ・駅前のバス・タクシーを再配置

#### ②：荷捌き機能の確保

- ・なんさん通り(南北)の乗用車は通行禁止
- ・貨物車両は1-9時通行可能
- ・周辺に荷捌き駐車帯を設置



### (2) 区間・エリアごとの整備計画

#### ①：駅前広場

- ・中央は利活用エリア、外周部は歩行者の通行空間を確保し、憩いの空間と日常のにぎわいを両立
- ・人が美しく見える舞台として、上質感・落ち着き感を感じさせる空間を形成

#### ②：なんさん通り(南北)

- ・駅前広場からのにぎわいを途切れることなく連続させるとともに、無電柱化の実施と歩道拡幅等により歩行環境を改善
- ・駅前広場と連続した高質性を感じながら、歩いて楽しい歩行者重視の安全・安心な空間を創出



## 5 持続的な維持管理・運営に向けて

### 基本的な考え方

- ・再編後の道路空間の持続的な発展のため、行政と適切に役割分担を行いながら、民間のエリアマネジメント組織が担い手となる管理・運営をめざす。
- ・地域・企業や既存のまちづくり団体と連携

### (1) 諸制度の活用

- ・隣接する御堂筋と同様に、「歩行者利便増進道路(ほこみち)」指定を検討

### (2) 荷捌きなどの交通ルール

- ・沿道の実態に即した荷捌きルールを自主的に運用

### (3) 地域環境保全の取組

- ・清掃や駐輪対策

### 官民共同

- ・ビジョン共有
- ・都市魅力の創出

### 官

- ・制度活用の支援
- ・【民】と連携した維持管理

### 民

- ・地域に還元する自律的なマネジメント
- ・広場・道路空間の環境維持
- ・地域ルールの運営(荷捌き・利活用・景観)

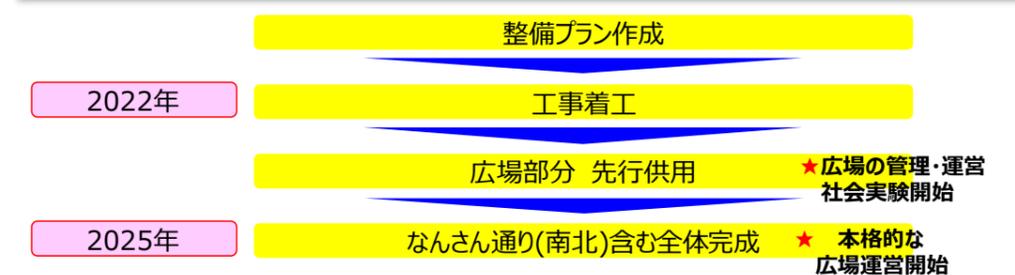
## 6 当面の進め方

### (1) 整備スケジュール

- ・全体整備は2025大阪・関西万博に向けて実現

### (2) 駅前広場の管理・運営

- ・広場の先行供用から全体完成や万博の期間を活用し、社会実験の実施を検討



## 7 今後の検討事項

### (1) 道路空間と沿道地域の連携

- ・公共空間と隣接する民地が一体的に、多様な人々が集う交流・滞在空間を創出することで、道路空間再編の意義や効果が一層高まると考えられるため、沿道との効果的な連携について、引き続き検討

### (2) 利活用に関する地域ルール

- ・ガイドラインなど自主的なルールにより、道路空間上の広告物や設置物を自主的に審査。利活用や景観・デザイン等を継続的に高質化し、エリア価値を向上

### (3) 世界をひきつける観光拠点づくり

- ・文化・歴史・芸術・エンターテインメントなどの情報発信機能について、引き続き検討

### (4) 防災拠点としての活用に関する検討

- ・情報発信機能を用いた屋外滞留者に対する情報伝達・案内誘導などを検討

### (5) 地域連携による回遊性の向上 (6) なんさん通り東西区間の整備

- ・なんさん通り東西区間は、空間再編による荷捌き活動の負荷の影響軽減のため、車道の一方通行化などによる歩道拡幅や無電柱化などの歩行環境の改善を検討
- ・交通影響の分析や沿道・周辺地域の理解・合意形成が必要

